

令和7年度外部評価の概要（新川農林振興センター）

1 地域特性を活かした活力ある農山村の実現

項目	各外部評価委員コメント	対応措置方向
<p>1 中山間地域農業の振興 2 鳥獣被害防止対策の推進</p>	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化・過疎化が急速な進展に伴い集落機能が低下しており、特に最近被害が急増している熊による被害などの現状を考えると中山間地域農業の維持・振興、鳥獣の被害防止対策は緊急課題になっているといえる。</li> <li>・中山間地域の過疎化・高齢化の進展、担い手の脆弱化、鳥獣被害等から生産活動が低下するなどにより地域活動の低下が懸念される状況にある。このような状況に対応するための、中山間地域農業における農業の振興と鳥獣被害対策を一体的に推進することは重要である。</li> <li>・地域の衰退、獣害対策は切実な課題であり、そこに向き合っている点は評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域特性を活かした活力ある農山村の実現に向け、①中山間地域農業の振興、②鳥獣被害防止対策の推進について関係機関と連携しながら推進してまいります。</li> </ul>
	<p>[取組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農タイプ別相談、個々の希望者に適した補助事業の支援、積極的な情報発信、大学との連携によるチャレンジ、そして経営体への支援策などの取り組みは妥当であると判断される。</li> <li>・鳥獣被害防止対策の推進が図られた結果、農作物被害金額は毎年減少しており、その取組みは妥当であり評価できる。</li> <li>・取り組みは妥当であると考える。</li> <li>・鳥獣被害防止対策としては、集落単位で自立し、対策を実践できる人材の育成を行うことが重要であり、捕獲や防除の技術に関する住民向けの研修会を年に数回は開催することが必要と思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、管内各地域、及び市町と連携しながら、鳥獣被害防止対策を推進してまいります。特に被害の多い地域等、要望に応じて各地域住民へ向けた研修会等を開催し、情報発信を進めてまいります。</li> </ul>
	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校・大学との連携による幅広い分野における地域活性化活動などは高く評価できるなど全体的に順調に進んでいると考えられる。</li> <li>・中山間活性化モデル地区数は連年増加し、他の目標成果も、ほぼ順調に推移している。</li> <li>・計画的に行われていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域特性を活かした活力ある農山村の実現に向け、①中山間地域農業の振興、②鳥獣被害防止対策の推進について関係機関と連携しながら推進してまいります。（再掲）</li> </ul>

	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの成果を踏まえた課題に適した、持続性のある計画であると判断される。</li> <li>• これまでの取組成果を踏まえた計画が策定されており、妥当であるとする。</li> <li>• 継続的に行われることを期待したい。</li> <li>• 獣肉の利活用として、食のイベントや料理教室を開催してジビエに対する意識を高め、今後の対応策にあります「ジビエ事業者に対する補助事業や専門家派遣等による経営安定化支援」として、捕獲から流通における諸問題を解決するための取組みを行い消費拡大につなげることが重要と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ジビエの利用拡大に関しては、農村振興課所轄の事業として実施していますので、いただいたご意見を共有します。</li> <li>• 引き続き、ジビエ事業者の経営安定や地域との連携強化に向けた支援を継続してまいります。</li> </ul>
	<p>[総合評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当センターの課題への取組みは適切で効果的であると評価される。しかし、最近被害が急増し緊急課題になっている鳥獣の被害防止対策と関連しては、各センターの地域特性に合わせた対策も必要であるが、他のセンターとの情報交換などの連携体制、予算確保など富山県レベルでの対策が必要と思われる。</li> <li>• これまでの取組みにより目標は達成され、その成果は大いに評価できます。農村部の交流人口を増やすため、地域の魅力を産地提案書やSNSを活用して県内外に発信する支援を引き続きお願いする。</li> <li>• ①中山間地域農業の振興 ②鳥獣被害防止対策の推進 この二つは非常に素晴らしい取り組みであるが、①については、支援事業がもしなくなった場合も地域住民が何らかの形で継続していけることが重要であるとする。②も同様で、処理施設を作るのは簡単だが、そこからの活用がないと無駄な事業になってしまう。捕獲してからの速やかな処理が課題であると考えられるので、人的資源の確保も含めて継続的な進捗報告があればなおよいとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 引き続き、地域特性を活かした活力ある農山村の実現に向け、①中山間地域農業の振興、②鳥獣被害防止対策の推進について関係機関と連携しながら、各地域が主体となった取り組みが自走できるよう、継続して支援してまいります。</li> <li>• また、国の鳥獣被害防止総合対策交付金などの予算確保について、農村振興課と連携しながら、引き続き国に要望してまいります。</li> </ul>

## 2 新規就農者の確保・育成

項目	各外部評価委員コメント	対応措置方向
1 新規就農者の確保 2 新規就農者の育成 3 新規就農者の定着	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化・後継者不足が急速に進んでいる現状を考えると新規就農者の確保・育成・定着という課題は当管轄農村地域における緊急で適切な課題であり、地域農業振興に貢献できる課題であると評価できる。</li> <li>・農業従事者の高齢化と担い手不足は、今後も問題視すべき重要な課題であり、その貢献度は極めて大きい。</li> <li>・しっかりとした施策がとられていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化や担い手不足に伴う新規就農者の確保については、引き続き、市町、JAなど関係機関と連携をとりながら、人材の発掘と育成に向け、就農相談から定着に向け伴走支援してまいります。</li> </ul>
	<p>[取り組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業高校との連携、就農規模者への相談体制、自営就農者への定着支援、青年農業者プロジェクト活動への支援などの取り組みは新規就農者の確保・育成に有効で、妥当であると判断される。</li> <li>・新規就農者の確保・育成・定着に向けた支援は、妥当であり評価できる。</li> <li>・取り組みは妥当であると考ええる。</li> <li>・新規就農者に対する経営改善や技術指導は継続的な支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者の確保定着に向けた支援施策や制度を十分に活用し、経営改善と確立、技術向上等による経営安定など、それぞれの課題を地域担い手育成総合支援協議会などの関係者とも共有し、その解決と目標達成を継続支援してまいります。</li> </ul>
	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題ごとの成果では新規就農者数の増加、県青年農業者育成基金の利用状況などを見ると全体的に順調に進んでいると考えられる。</li> <li>・新規就農者数は大幅に増加し、着実に確保されている状況にあり、大いに評価できる。</li> <li>・計画的に行われていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、市町、JA等関係機関と情報を共有し、指導、支援対象者のきめ細かな把握に努め、適時適切な支援を体系的に進め、新規就農者の確保、育成、定着を推進してまいります。</li> </ul>

	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの成果を踏まえた課題に適した、持続性のある計画であると判断される。</li> <li>• 今後の対応策は妥当であり、継続的に取り組む必要がある。</li> <li>• 今後の計画もしっかり練られていると考える。</li> </ul> <p>• 今後も新規就農者の経営が成り立つよう導くために、生産物が売れる道筋を作っていく必要があると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新規就農者の早期経営確立に向け、青年等就農計画達成に向けた施策の推進や産地を主導する農家等の指導に基づく技術定着、品目に応じた販売ルート確保、自らの発信による販売力の強化など、「売れる」「稼げる」農業の実現に向け、引き続き支援してまいります。</li> </ul>
	<p>[総合評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当センターの課題への取り組みは適切で効果的であると評価される。ただし、各課題への取り組みと関連してこれまでの成果だけではなく試行錯誤などのより具体的な評価や示唆点の提示も必要と思われる。また、新規農業者確保・育成と関連して他の振興センターとの情報交換体制の構築や県全体の取り組みとデータの確保と比較した評価表の提示も必要と考えられる。</li> <li>• 新規就農者数の確保・育成は、農業従事者の高齢化と担い手不足により集落営農組織の存続が危惧されている重要な課題であり、その取り組みは高く評価され、継続的かつ拡大に向けた支援が必要だ。地域農業の振興のためにも、普及における新規就農者への支援体制（技術面・資金面）の充実が一層必要と思う。</li> <li>• 新川農林振興センターは、他と比べて新規就農者が多いと感じている。新川ならしっかりと農業ができるというイメージもあるのではないかと。ロールモデルもあり、今後、後続く人が沢山出てくることを期待したい。青年農業者のグループは、参加人数がなかなか増えないようではあるが、会に参加する魅力をもっと発信していただき、なんとか踏ん張ってほしいと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 引き続き、とやま農業未来カレッジや県農林水産公社、地域担い手育成総合支援協議会はもとより、地域おこし協力隊制度を活用した就農支援や農業高校生への就農啓発など、関係機関と連携し、就農希望者の円滑な就農と早期の経営安定に向け、継続支援してまいります。</li> <li>• 特に、農業青年組織に対しては、組織を超えた交流やSNSを活用した迅速な情報共有、共同プロジェクトの実施など、課題解決能力の向上と仲間づくりを目指し、参加者にとって魅力的な組織運営を支援してまいります。</li> </ul>